三次のうかい

三次市立十日市小学校
第３学年　畠本　史菜

三次のうかい

三次市立十日市小学校
3年い組 畠本史菜

1.はじめに

三次には400年いじょうのれきしをもつ「うかい」という漁法があります。うかいとは「うしょう」という人が「う」という鳥を使って魚をとる方法です。今は、かんこうのために行なわれていますが、魚をとって生活するためのむかしのうかいのわざを、今につたえていることから、広島県ではじめてみんぞくぎじゅつとして、平せい27年4月に広島県む形みんぞく文化ざいにしていされました。

十日市小学校では、3年生がうかいについて学習しています。そこで、うしょうの日坂さんに聞いたことや、三次市で作られたパンフレットをもとにうかいのことをまとめました。

2、三次のうかいのとくちょう

①うしょうのいしょう

うしょうはえぼしとツツソデとコシミノをみにつけます。

えぼしは頭にかぶるぼうしのようなものです。黒色の木めんせいで、三次ではかんむりににた形のものが使われます。これは、三次どくじの形だそうです。

ツツソデはこしから上の着物のような服です。これも黒色の木めんせいです。

コシミノは、こしにまくスカートのような服で、わらでできています。水にぬれず、しっ気でむれないためうかいにぴったりです。

うしょうは、ふねにはだしでのります。はきものやくつしたをはいていたら、すべってころぶかもしれないし、ふんばりがきかないからだと思います。

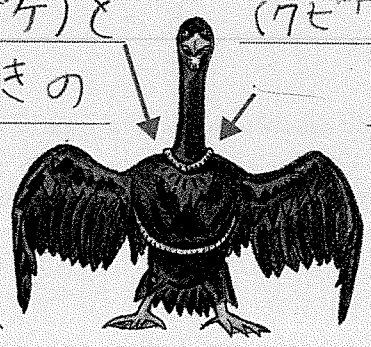
② 手なわ

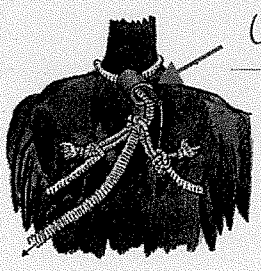
手なわは、うの首にかけ、のみこめずにのどにたまった魚をとるためのひもです

三次のうかいでは、日本で一番長いやく7mの手なわを使います。手なわが長いほど、うは遠くまで行くことができ、魚をたくさんとることができます。ただ、手なわがもつれやすくなるのでうしょうのわざがひつようです。

「う」はたすきを使ってつながれます。三次のうかいでは、うの首を直せつしめつけるようなことはせずに、このたすきを使ってうをつなぎます。うがはやく弱らないよう首をしめる強さをかんたんにかえられるようにエふうされているところがとくちょうです。

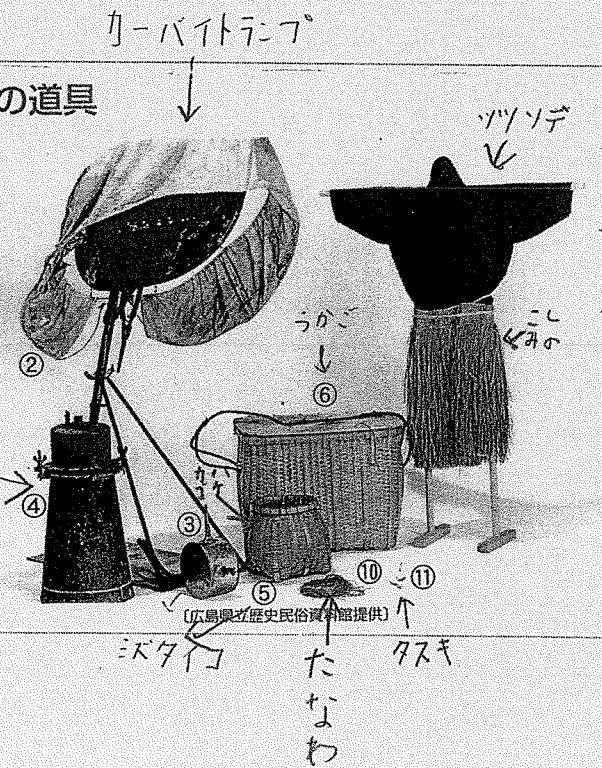
うしょうさんの、うを大切にしたいという思いがそこに表われていると思います。





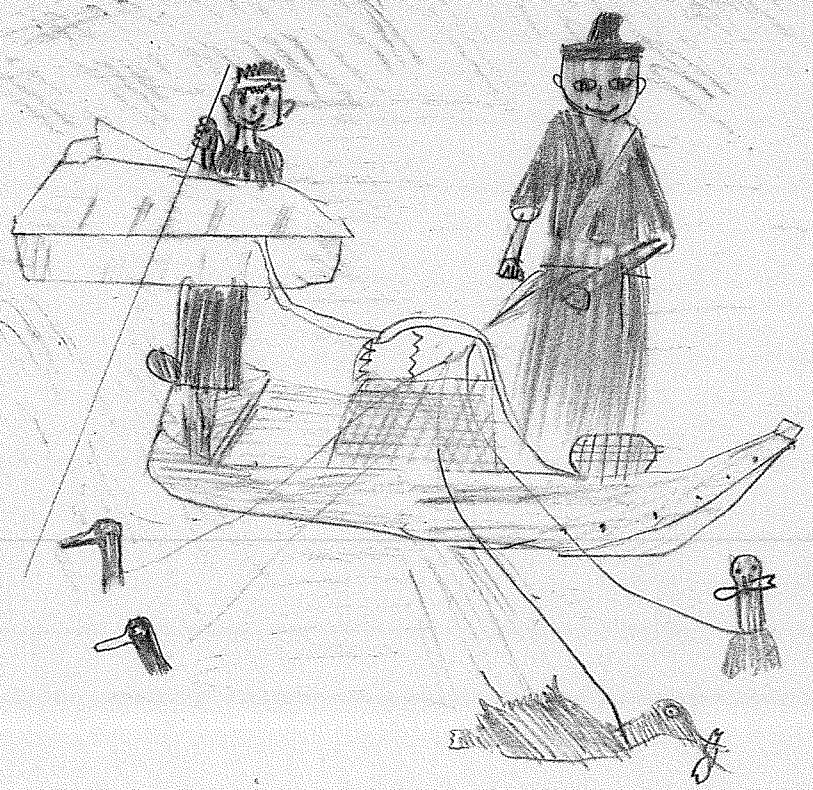
③ カーバイトランプ

うかいでつかう明かりです。ガス発生きでできたアセチレンガスをもやし川を強い光でてらします。夜の間、多くの魚は、川の岩かげで休んでいます。とつぜん強い光にてらされて、すくんだりにげようと動いたりしたところを うがつかまえます。ほかの地いきのうかいではふつう明かりにたいまつを使いますが、三次のうかいは、より明るいしょう明を使うようエふうし、いぜんはたいまつより明るいオガラを使っていましたが今はカーバイトランプを使います。カーバイトランプはとても明るいので川のそこまでてらします。そのぶん、うは、あゆを見つけやすくなるそうです。



㊦細くて長いふね

三次のうかいのうぶねは はやく、遠くまで行けるよう細く長く、水につかる所が少ない形をしています。そうしたふねは、ゆれやすくうをあやつることがむずかしくなりますが、三次のうしょうは、わざをみがき、ふなべりにもたれたり、ふねにすわったりせずに自らの足だけで立ち、うかいを行います。じっさいにうぶねを見に行ってみると、すごく細ながくておきゃくさんがのるふねのはばとちがっていました。



3か題

400年もつづいている三次のうかいですが
か題もあります。

①うしょうが少ない

三次のうしょうは、三人です。しかも三人とも、うしょうの仕事だけでなくべつの仕事も持っておられます。昼まの仕事を終えて夕方からうしょうの仕事をするのは、大へんだと思います。しゅう入が少なく、しかも夏しか仕事がないためにどうしてもほかの仕事をせざるをえません。だからうしょうになる人が少ないのです。

②うぶねを作る人が少ない

2012年のくれに市内ただ一人のふな大工だった光森けんじさんがなくなり三次の川ぶねは、ききをむかえました。地元で作られたふねにのりたいと強くねがう うしょうさんのよびかけに 市内の大工さんたちがこたえてくれたそうです。

しかし図面などはなく、わずかな手がかりをたどってふねを作られたそうです。また、のみやくぎなどのふねづくりの道具やぶひんが手に入らなくなっているそうです。

③あゆがへっている

川がよごれてきたことや 外来魚がふえて

あゆを食べてしまうことであゆが少なくなっているのです。あゆがいなくなったらうかいそのものができなくなるのですから心配です。

㈣大へんな出来事

今年はとくに大へんな問題がおこりました。うが14羽もしんでしまったのです。原いんは「にょうさんえんちんちゃくしょう」つまりだっ水によるびょう気ですうは、水鳥なので、一日一回は、水あびがひつようです。ところが一月のさむい日に、かぜをひいてはいえんになってはいけないと水あびをさせなかったそうです。それがぎゃくによくなかったようです。うをずっとかわいがってきたうしょうさんたちにとってどれほどショックだったかと思います。それでもかなしんでばかりはいられませんでした。5月11日に茨き県から新しいうを10羽送ってもらい、6月のうかいが始まるときまでにくん練をしなければなりませんでした。うしょうさんたちが毎日新しいうにうかいの仕事を教えるだけでなく、生きのこった先ばいのうが新しいうに教えてやる様子も見られたそうです。

生き物をあつかううかいの仕事は、一日も気がぬけない大へんな仕事です。

4 おわりに

三年生になってそう合できな学習の時間にうかいのことを知ってうかいに対するきょう味が高まりました。うかいのことを知らない友だちが来たらうかいのことを教えてあげたいです。

でもか題もたくさんあると知りました。そのか題をかい決するために三次の地いきの人がみんなできょう力しあっていることも学習して分かりました。

たとえば三次のうかいと、カープのコラボTシャツが作られました。そのTシャツを売ったお金でうかいのコマーシャルを作るそうです。

こうやって三次のうかいがもっと知られてたくさんの人に来てほしいです。三次のうかいがもりあがってずっとつづいてほしいです。わたしはこれからも三次のうかいを、おうえんしたいです。

ぜひ みなさん、三次のうかいにおいでください。

〈指導者の言葉〉

十日市小学校の３学年の児童は，「総合的な学習の時間」に地域の特産品について学習しました。「鮎」を特産品として取り上げ，鮎を獲る漁法の一つとして「鵜飼」のことを学習しました。今は，観光としての「鵜飼」が行われていますが，長い歴史と人々の知恵を伝える大切な地域の財産として残されています。

しかし，一方で後継者の減少や，環境の変化に伴う鮎の減少など，これからの課題や問題点も抱えています。

その中でも地域の人々は，工夫を重ね，協力をすることで困難を乗り越え未来につなげるものとして取り組みを続けておられます。そのような人々の努力に学び，地域を誇れる人間を育てたいという思いのもとに指導してきました。

以上のような総合的な学習の時間に学んだことを，国語の学習と関連させ，報告文にまとめました。資料からわかったことや，鵜匠さんから聞いた話をもとにして，まとめる項目を考えさせ，写真や，絵を添えながらより分かりやすく仕上げていきました。

最後は，児童の「三次の鵜飼」に対する思いで締めくくり，メッセージ性ももたせました。